

<市民団体>

日 時：令和2年10月20日（火）14時30分～16時00分

会 場：県庁知事応接室

参加者：11名

【発言者①（子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会①）】

私どもの方としては、一応皆に話してもらうために今日は順番を決めてその順で話していきたいと思います。

最初の皮切りとして一応私から話をさせていただきます。

私は、川辺川を守る県民の会の〇〇と申します。

私は、知事が一番最初に知事になられた時、一番最初の頃、知事から直接お電話をいただいたことがあるんです。

その時は荒瀬ダムの件で、私達が意見書を出したことに對して知事からお電話をいただきまして、非常に感激した思い出があります。

その後、2008年に球磨川が宝であるという知事の発表。これは県民の一人として非常に喜んで、私はずっと知事のファンになっております。

今年の人吉の、人吉・球磨川水系の水害において、私も検証委員会の傍聴に行って資料もいただきました。

今いろいろ<sup>る</sup>々<sup>る</sup>説明をいただきましたんですけど、その説明と現場での説明と、それからいろんな資料を読ませていただいて、一番思ったのは現場で被災にあった方々と検証内容が非常に隔離しているという、そういう感覚を受けたことです。

先ほど犠牲者については、相当深い調査をされているような説明をいただきましたけど、私はこの資料と説明を聞いた時に、犠牲者の調査というのはほとんど私の記憶の中には入っていません。

その時に一番思ったのは、犠牲者の方々がどこで亡くなられて、いつ亡くなられて、なぜ亡くなられたのか。そのことがほとんどわからないままです。

あの方々を助けるためには一体どういう方法があったのかということが、本当は検証委員会の一番最初にやらなきゃいけない仕事じゃないかなというふうに私は思います。

それからもう一つついでに、これから<sup>る</sup>々<sup>る</sup>いろんな方々が問題点を言われると思いますけど、その中でもう一つ例として、今回の水害の特徴を皆さんどのよう<sup>る</sup>に感じておられるのか。私は今回の水害は支流の増水が非常に大きなポイント

トを握っていると思っています。

今回、支流の増水の状況を的確に判断しない限り、今回の水害の的確な判断はできないんじゃないかと思います。

なのになぜか、突然川辺川ダムというのがポンと資料の中に出てきて、そこに非常に大きなエネルギーを使ってシミュレーションなんかを行って、ダムがあれば相当な低減効果があったというようなことを出されていますけれども、あのようなことをするなら、なぜ市房ダムと瀬戸石ダムのその時の状況の検証を一緒にやらないのかな、というのが私の一番大きな疑問でした。

私どもは、水害の直後から私どもそれなりに中に入っている方々と話したんですけど、最初の1か月、いや10日間ぐらい、いろんな方々の話を聞くと、皆さん一様に言われたのは「市房ダムの放流がなくてよかったね」と、「上流にダムがあると恐ろしかばい」と言われるようなことが一番多かったです。

それで今日この頃、今度は人吉とか坂本なんかに行って皆さんの話を聞くと、「今ダムの話じゃなかろうもん、バカじゃなかつか」とよく言われます。

そのぐらいに皆さん、川にダムを造ることについては非常に大きな危機感を感じているということです。

これが大体偽りのない被災者の声です。

けど、その声に果たしてどのぐらい知事をはじめ県の皆さん方が答えてわかるように説明しているのかというと、非常にうつろな気がします。

だから私どもは公開質問状を出したわけです。

それで19日迄ということで昨日まで何の返事もなかったもんですから、まあまあ無視されたなというふうに思ってたんですけど、今日それなりの返事をいただいて本当にありがとうございました。

今日聞いた返事については、じっくりと私どもも、もう一回検証してみたいと思っております。

その中で随分、国交省の八代河川国道事務所に聞いてくれという話がありましたけど、はっきり言って今の国交省は住民に対して親切な説明をしようとするという意識は、私どもは全く感じないんですよ。

ですから、国交省が住民に本当に説明責任を果たす、前に住民討論集会をやりましたように、説明責任を果たすだけのそういう良心を持って住民と付き合っていたらいいと思います。

そのことを是非、知事の方から国交省の方へ、是非、お口添えいただきたいと思っております。

それからもう一つ、最後にちょっと付け足しかもしれませんが、復旧と復興を同時に考えるべきじゃないんじゃないかという気がしております。

復旧は確かに急がないんです。

人々が生きていくために、復旧は必要です。だが、復興は、特に計画は、拙速をもって考えたら後世に大きな禍根を残すということをお考えになって、復興のことをお考えいただきたいと思っています。

大体私の最初の意見はここまでです。

【発言者②】（清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会①）

手渡す会の〇〇です。よろしくお願いいたします。

この話から始めようと思ったんですけど、懐かしい新聞だと思うんですけど、地元の私は手渡す会ですけれども、手渡す会のほとんどのメンバーの人は被災しています。

今日みえている代表の方も事務局長も被災者です。

ただ、私が偶然被災していませんので、皆さん、被災した人達と一緒にいろんな話をしている一人ですけれども、先ほどの〇〇さんとちょっとかかるんですけども、一番重要なのは、是非言ってほしいという地元の話としては、最近店を開かれた女将さんの話だと、自営の復興は既に次の洪水が来ることを想定してリフォームしましたと、他の店に行ってもそういう人があるんですよ。

既に次の洪水も想定して、川に住めば当然洪水は来るものだという、そういう川と共に生きる心意気とちゃんと心得て復興に既に取り組んでいらっしゃる人がいる。

その中でダムだダムだと言い出すのは何事だと、けしからんと是非伝えてほしいということがありましたので言いますけれども、そして最後に球磨川と共に暮らせる復興を望んでやっているんだということ、これをしっかり踏まえてほしいということでした。

実はこの新聞を持ってきたのは、2008年の時に知事がおっしゃった話が、初めてこの災害で証明されたんだというふうに私は見えています。

本当に地元の人達が、本当に球磨川を大切にするとということが、あれだけの被災に遭いながらも、なお球磨川は大切だと言い続けてらっしゃる。これは本当に大切なことだと思いますので、強く要望して本論に入らせていただきます。

先ほどから命を大切に、何回も言われましたけど、私も今度の災害で命を大切にすることは何だということを真剣に考えています。

これは今回の災害で学んだことを中心にですけど、全部喋ることはできませんので、その一部をこういう形で喋らせてもらいます。

これは御溝から来たという、御溝というのは人吉市内を流れている用水路ですけど、御溝から来たと言う人が非常に多いんですよ。

なぜかこの言葉が出る。球磨川から来たという言葉は一人も聞きません。

で、御溝の先に指される川は山田川と万江川です。なぜこういう話になるのか

なという、こういうことです。この地形を見てもらうと、プリントには写真で載せてありますけど、これを見せると皆わかったというおっしゃる人が非常に多いんです。人吉の川を支配している川は、球磨川ではありません。

球磨川が一番低いところを流れています。山からドッとくるのは支流です。この支流。この支流と結びついているのが御溝なんです。

今回はまさにこのことが起きたんです、ということ。

ですから治水対策だ、命の安全だという時に、このことを抜きにして発言されるのは、全部地元の人はおそらく信用できないんだという、そのことを是非伝えておきたいと思います。

続いて、ただもう一つ問題があるんです。

普通我々はこの生活しているところで、目につかない地形というのがありません。

本当のわずかなへこみだとか、溝だとかっていうんですけど、これが本当に命取りの流れを作り出しているという、その話は後程〇〇さんの方から具体的に説明させてもらいますけど、これに気付かせてくれたのが、実はこれなんです。

実は合流点のちょっと下の陣の内という相良の部落、集落があるんですけど。ここの所の氾濫ですけど、これは当日の写真です。非常に穏やかに氾濫した姿です。

これ事実、これが引いた後、この前もここに行ったんですけど、ほとんど水田ですけどけれども、本当に稲は立派に実って本当にここは氾濫した被害地かというぐらいの、元に戻っています。

ただ大変だったのは、ここです。

これは川村という駅があるんですけど、川村の駅とこれが、こちらですけど、川村の駅、川村の駅と隣接している家、これはハチャメチャにやられてしまいました。

なぜか。なぜここだけ起きたのかというのが非常に大きな問題です。

氾濫したところはいっぱい広く氾濫しているけれども、ある所だけに筋状に起きたのはなぜか、これが命を守る非常に重要な。これは地形図を見ると旧河道というのがちょうどここに入り込んでいるところです。

この旧河道なんていうのは普通の目ではわかりません。

ただし、こういうのが氾濫した時にはものすごく危険な流れを作り出すということです。

最後に一言。市房ダムの話が出てましたけれども、これは日常、今度の水害が起きる前までの球磨川です。市房ダム直下のこんな汚い土砂だらけ、いっぱい堆積した、これが洪水発生と同時にどういうことが起きたかといいますと、これです。見てください、同じ場所です。ここにあった土砂やヘドロは全部下に流しま

した。下流域に甚大な被害を及ぼしました。と同時に、ここにこれだけの多量な土砂、土石をまた再び積み上げています。これが危険の次の危険の予告です。

ダムじゃなくて、川をしっかり見た対策を考えていただきたい。

これが最後の言葉です。どうも失礼しました。

### 【発言者③（清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会②）】

手渡す会の〇〇です。

私もちょっと〇〇さん、〇〇さんとかぶるところがありますけど、検証委員会が始まって、第1回びっくりしたのは、やはり人吉地区で20名の方がどうして亡くなられたのか、その原因は何なのかということをもっとまず解明されるだろうと、どうしたら命が救えるんだらうかということをもっと、まず最初に議論されるんだらうと思っておりました。ところが、1回目も2回目もそのことについてはほとんど触れられていません。

先ほどちょっと言われましたけど、ほとんど触れられていないということです。

それで私ども手渡す会は自分達で歩きまして、それで実際どうだったのか、それと今言われている川辺川ダムというのがもしあった場合に、その人命というのは救われたのだからと、そもそも水はどこから来たのだからと、今回の多量の水はですね、ということをもっと調べてみました。

それで、ちょっと説明がかぶることになりますけど、これ先ほどの、一緒です。

人吉の主な市街地はここなんですけど、支流はこういうふうに。立っていいですか。

こういうふうにあります。これは上流です。こういうふうになっています。

今回の浸水域というのがまずこういう感じになります。

これでははっきりしませんけれども、人吉は元々この支流の扇状地です。これだと少しわかると思うんですが、こちらから北側から南側に向かって、一番低い球磨川へ向かって傾斜しています。

この、御覧になられますか。この小さな河川、中小河川、これがものすごく悪さをしている。

調べました。まず、ここの支流よりもはるかに早い時間に山田川のこの右岸で氾濫を起こしているんです。

6時の時点でこの駅の近くの駒井田という所は、もう既に270センチも水位がある。

もう早い時間から、だからこの国土交通省のこの説明資料とは一致する部分もありますけど、もっと早い時間に洪水は始まった。その水が例えば、ここに赤いポイントを打ちました。これがお亡くなりになられたところの住所です。

実際にその近くに行きまして、どこから水が来たのか近所の方にずっと全部聞いて参りました。

例えばこれは万江川というんですけれども、ここの堤防は7時40分にはもう堤防から越流しているんです。

でも、これも全く検証されていません。

ほとんど球磨川からの増水、山田川だけなんですけど、当日9時間雨量で山田川と万江川の上流では400ミリ降っています。

人吉は339ですけど。

はるかに降っている水が、夜のうちからもう本当に扇状地に滞水して下流へ流れているんです。それで、いわゆる流れ下るという表現です。氾濫した水がこの九日町地区、ここが低地になっています。それから下青井地区、それからこの下薩摩瀬、それから温泉町、ここに流れ下ってます。

その流れ下った水で流されてお亡くなりになった方が非常に多いです。20名人吉ですけど、16名は避難の途中で亡くなっています。

ちなみに平均で74歳ですね。

あと、体の不自由な方もいろいろいらっしゃいましたけど、ここの氾濫というのは万江川の氾濫で、あとここに福川というのがある。普段は小さな川ですけど、ここの氾濫で既に亡くなられている可能性が非常に高いんです。

この青井地区にしても、この山田川からの右岸から水が青井神社の裏を通過して7時30分頃には2m位の浸水になっているんです。

その後、球磨川本川からも来ています。

これについても、まず最初の浸水はどちらから来たのか、どうしてそこで逃げ遅れたのかということはやっぱり検討に値するんじゃないか。それから例えば、ここは4名の方が亡くなっています。

球磨川の傍なので、球磨川からの堤防の越流によって亡くなられたんじゃないかと思われていますけど、実際はここに水が集まっているんです。それで避難できずに、避難の途中で亡くなっています。

何も言えなかったですね。すみません。

じゃ、一言だけ。ダムは本当、机上で想定したシミュレーション洪水にのみ効果を発揮すると。実際のダムは社会的には自然環境を悪化させるし、緊急放流により、洪水災害を助長したり、同時放流の危険性、しかも寿命があるということです。

だからまた100年後の人達は、もし造るとしたら、同じ問題を抱えなきゃいけない。

すみません。ちょっと言葉が足りませんが以上です。

【発言者④（清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会③）】

私は、手渡す会の〇〇と申します。よろしく申し上げます。

熊本県知事にこのような機会を与えていただき感謝をいたします。

私は次の2点について述べたいと思います。

一つは民意ですね。民意はどこにあるかということです。団体の長が民意ではないと思います。

二番目は先ほど何回も出ましたけれども、国土交通省の検証結果7,000<sup>m</sup>/s、これは正しいのかということがあります。

まず一番の民意についてです。

私は、病院を経営して私の病院も山田川の右から浸水して1.9m浸水しました。

私は私の病院に来られる被災された患者さん102人から聞き取り調査をしました。

私は被害を受けて、川辺川ダムに対する意識が変化したのかと思っていましたが、驚いたことというか、私はやっぱりと思ったんですけど、被災前とは全く変わっていませんでした。

患者さんの声を集約すると以下の4点です。

患者さんもよく「宝の川球磨川」を言われます。それは知事さんが以前言われた言葉だと思いますけれども、球磨川を壊してはいけない。2番目によく言うのは、「市房ダムができて球磨川が汚れた。ダム放流は怖い。だからダムはいらない。」、3番目は「清流球磨川がなくなってしまっっては人吉の未来はない。人吉の復興はない。」、これは皆さん言われます。

僕は聞き取り調査をしているから非常に生の声を聞いていると思います。

4番目は、「掘削をなぜ国はしないのか。」。

僕は掘削よりも浚渫という言葉を使った方がいいですね。

岩盤を削るんじゃなくて、もう既に溜まっている土砂を取るということですね。

よく言うのは、今回の洪水は堤防の天端から1~2m超えたと。1~2m溜まった土砂をなぜ国は取らないのか。この4点が患者さんの声の集約です。川辺川ダムが欲しいという人は一人もいませんでした。

民意がどこにあるのか十分に調査をしていただきたいと思います。

また、私の知っている自治体の長や団体の長でも、私と個人的に会うとダム反対の人が多いです。

あの人達も「私達はしがらみでやっぱり反対とは言えないんですよ」と言われるんですよ。そこは非常に大事な点でないかと思います。

それからもう一つは、2点目ですけれども、国土交通省の言われる流量700

0 m<sup>3</sup>/s は正しいのかという点です。これは知事さんにも、このグラフはありますか。

2つグラフございますか。このグラフ1は、水位と流速の関係です。流束と流量というのは、これですね。

それがグラフ1です。

結局、川の水の流れやすさ、流れにくさというのは粗度係数で決まります。で、勾配も同じですね。同じ川であれば。

だから水位によって流速と流量はこの規定される関数になるわけですね。

それで僕は計算して、このグラフが出てきたんです。

国がいう7, 000 m<sup>3</sup>/s を当てはめるとここになるんです。

これだと7, 000 m<sup>3</sup>/s の流速というのは毎秒4.9 mと非常に遅くなるんです。実際水位が7.5 m前後の流束というのは毎秒6.8 mです。

これが非常に正解に近い量だと思っています。

流速がわかれば断面積×流速で、大体、人吉地点の流量は9,700 m<sup>3</sup>/s 位になるんです。

以上、まとめまして、民意を十分に把握して、そして公正な資料のもとで今後の判断をしてもらいたいと思います。

私の知っている松岡人吉市長だって、住民への十分な説明を強く強く望んでいます。彼も個人的にはダム反対なんですよ。

ただ、いろんなしがらみでダムを反対と言えない状況なんです。

そこをお金というか、特にお金がかかるからどうしても自治体の長というのは反対を言えない立場にあるんです。

私達は、蒲島知事の2008年のローカルの価値観というか、球磨川の流れは守るべき宝、それを守りたいのが民意であると言われました。その言葉を非常に僕は誇りに思っております。

以上です。よろしく願います。

#### 【発言者⑤（清流球磨川・川辺川を未来に手渡す流域郡市民の会④）】

はい。〇〇と申します。よろしく願います。

先ほど公開質問状に対するお答えをいただいたんですけども、県が一生懸命取り組まれている項目だとか、そういうのは非常に誠意をもって伝わってきたんですけど、国交省の数字が科学的か否かというのが、やっぱり一番の私達が訴えたいことなんですけど、それに対する回答が八代河川国道事務所のホームページに後で掲載すると、それはちょっと許せないと思います。

科学的だったらきちんと住民の質問に答えるべきだと思いますし、例えば先ほどの市房ダムの放流にしても、検証委員会では予備放流をして非常にピーク

が小さくなった時の非常放水を想定しているわけですよ。

じゃなくてこの質問状では、ピークが大きい時に緊急放流した場合にどうなるかというのを聞いているのに、全然違った答えが返ってきているわけですよ。

ですから住民が科学的ではないというふうに判断して、質問した件に対しては知事の方からも是非、国交省の方に説明責任を求めてください。お願いします。

私は、今小学校の教諭をしているんですけど、やっぱり球磨川、川辺川は未来の子ども達に絶対に伝えなきゃならない。川辺川ダムを作ったら絶対これは未来のためにはならないだろうと思ひまして、長年この運動に関わっております。

私は、この資料を基にお話ししたいと思ひます。

今、川辺川ダムを流水型のダム、つまり穴あきダムにすれば環境に優しいとの国交省の説明を信じて、そう思っている人がちょっと増えてきているように思うのをちょっと危惧しております。

それはちょっと間違いであることをここで述べたいと思ひます。

全国に作られた穴あきダムの穴の上流側には、このようにスクリーンといって、金網みたいなやつですね。隙間が20cmしかないスクリーンが設置されます。洪水時は大量の立木、岩石、土砂などが流れ、この右側の写真のように、堰や橋脚にひっかかります。

川辺川ダムの集水域は470km<sup>2</sup>もあります。

そこで発生した立木などがダムの穴に押し寄せ、穴を覆うこのスクリーン、金網を覆ってしまえば洪水調節できなくなることが十分考えられます。

あと、流水型の川辺川ダムの穴の長さは、高さが100mぐらいですから、長さも100mのトンネルになるわけですね。魚族などは遡上できなくなります。

洪水時はダムの上流に砂や礫を大量に取り込み、下流へ砂や礫の供給はなくなり、ダム下流は岩盤の露出、あと、濁りの長期化など河川環境に致命的なダメージを与えるはずですよ。

これは川辺川上流にある小さな穴あきダム、高さ25mの朴木ダムの写真なんですけど、洪水時に大量の土砂を溜めこんでいるのがわかると思ひます。

洪水が終わった後も、穴あきダムであるためにダム上流に溜まった土砂が露出し、溜まった土砂が今度は流れ出して、長期間川辺川と球磨川を汚しました。濁りました。高さ25mの朴木ダムでもこのありさまであるので、高さ108mの川辺川ダムができれば、更に濁りが長期化して川辺川は死の川になるはずですよ。

このことは新潟大学の熊先生も述べておられますので、今日資料を添付しておりますので御覧ください。

次に2枚目の資料に移ります。

球磨川の豪雨検証委員会では、どのような数値や手法を基に導き出されたの

か一切明らかにされないまま、川辺川ダムの効果だけが一人歩きしている状況を非常に残念に思います。

国交省が開示した82年洪水の実績流量とか、HQ式に当てはめると、今回国交省が公表した人吉のピーク流量7,000m<sup>3</sup>/sは、あまりにも過少です。

HQ式に当てはめると堤防天端で7,000m<sup>3</sup>/s。今回はそれを2m近く上回っているわけですから、1万m<sup>3</sup>/s以上の洪水が流れたのではないのでしょうか。

国交省が今回の豪雨を科学的に検証したと言うならば、検証内容を住民に堂々と説明して住民の疑問にも丁寧に答えるべきなのに、ホームページを見ろではあまりにもひどいと思います。

結局、被害を被るのは未来の子ども達ですので、やはり私達の世代で悪いものは悪い、やっぱりちゃんと検証しないと未来に禍根を残すことになると思います。

最後に河道の土砂撤去の話です。今までもいくつか出ましたが、近年人吉市内の球磨川の河床には大量の土砂が堆積したまま放置され、河床が驚くほど上昇しています。

河床に溜まった土砂の撤去など当然やるべき河川管理を国交省はやっていません。

さっき質問状の回答で大柿とか中神とかで、河道掘削をやったというふうな話ですけど、人吉の中心部ではやってないわけですね。

やはり今回、非常に大量の土砂が溜まっていますし、国交省の工事实施基本計画の図面では、更に深い所まで掘るような計画があったわけですね。

でも、最初から河道掘削は対象から除外してありますので、やっぱり掘るようなことも是非検討してください。以上です。

#### 【発言者⑥（瀬戸石ダムを撤去する会①）】

はい。〇〇と申します。

まずは県民の会の立場として申し上げます。

この方法では民意はできないという文書を渡しているんですけども、現在意見を言う会が開催されていまして、このやり方が2008年に白紙撤回表明をされた時の7月に、八代と人吉で県民の意見を聞く会というのを開催されているんですけども、そのやり方と比較して明らかにおかしいという所がありますので、まずその問題を指摘しておきたいと思います。

今回、事前告知が今週開催する会を先週末発表されています。

2008年の時は3週間以上前に告知されていたので十分住民の方は準備して参加することができたけど、今回は急ですので非常に参加しづらいと。あと、前回は日曜日とか平日の夕方に開催されていたんですけど、今回は平日の昼間

とか、土曜日の昼間で、非常に住民側の仕事とか復旧作業に追われている時に開催されますので、参加しづらいと。

あと、一般傍聴が今回は認められていません。

前は申し込めば誰でも傍聴することができたんですけど、今回誰も傍聴がない中で発言しないといけないということで、非常に制限されて、自由な雰囲気では発言はできないという問題があります。

あと、ヒアリングの対象に各種団体とか、県議会とかに市村長、議会議長は指定してありますけど、前はただ発言したいと申し入れた人だけだったんですけど、今回県の方から指定するというこのやり方はおかしいと思います。

申し込みをする人は、やはりその問題を深く考えて申し込んで発言するわけですから、指名されて発言する人との発言の重みが違うわけですね。

だからこういうやり方で、2008年と今回の民意の比較はできないということもまず申し上げておきたいと思います。

続きまして、瀬戸石ダムの問題について申します。

お渡ししています文書の添付資料を中心にパネルにしましたので、御説明いたします。

これは7月4日の朝、瀬戸石ダムを写した写真です。

もうダム湖がこういうふうに満杯になっちゃって、ダムの下流のところとダムの上流水位が一緒になっているわけですね。

電源開発は、これを自然の河川に近い状態といっているんですけど、とんでもない状態。

だから、これがこういうふうにダムが水位の上昇をもたらしたのは間違いのないという状況です。

219号線がこの写真では浸かってないんですけど、もっと219号線も浸かっていますので、最高水位はもっと上がったという状況です。

ダムがどうやって流れを阻害したかっていうのがこの模式図ですね。この茶色の斜線部分は最高水位時における河道の断面図です。

その中で水が流れた部分はこの水色の部分なんですけれども、そうすると水が流れた部分は計算すると3分の1しかない。

それ以外は、ダムの構造物なんですね。

ということは、ダムの構造物が3分の2あったので、流れを阻害したということが言えると思います。

計算式は、別紙の3番に添付しております。

別紙の4番ですけど、これは川の水面がダムを建設する前から5m以上上がったということを示す写真です。

上の方は2016年です、県道がある所からダムの水面が6m下なんです

けれども、ここの下の写真はダムを建設する前の引っ越しを住民がしている写真ですが、その時の県道と水面の差が11.1mありますので、ダムができてから水面が5m以上上がったということを示す写真です。

じゃあ何でダム湖の水面が上がったのかと申しますと、別紙5にありますグラフですね。ダム湖の土砂の状況ですけど、81年からどんどん土砂がダム湖に溜まっています。

2002年以降もずっと溜まってて、一番多いときは100万m<sup>3</sup>以上超えています。

国交省は電源開発に対して、洪水発生危険性があるから土砂を取って何回も言ってきているんですね。

にも関わらず、今回こういう水害が起こったということは、やっぱり土砂が溜まったということが大きな原因だということに言えると思います。

次に別紙7ですが、今言ったことをまとめました。瀬戸石ダム上流の被害の原因ですが、ダムの構造物自体が川の流れを阻害したということと、2点目はダム湖の溜まった土砂が水位を上昇させたということです。

最後にダム建設とダム撤去の比較ということで、川辺川ダムを検証されていますので、瀬戸石ダムを撤去したらどうなるかという話をさせていただきたいというふうに思って、こういう表を作りました。

工事費用川辺川ダム3,300億円、これは2004年当時の国交省の文書によります。

瀬戸石ダム撤去ですが、荒瀬ダムも費用がわかりますので、84億円しかかからないと。完了までの期間ですけど、川辺川ダムは66年に発表されて2009年までの中止になるまで43年間かかってできていません。

荒瀬ダムは約5年半で撤去されています。

被害が減少ということで、川辺川ダムの建設を考えるんだったら、瀬戸石ダムの撤去も考えてほしいと、電源開発も瀬戸石ダム、大きな被害を受けていますし、土砂もこれまで以上に取らないといけないので、費用がかかるはずですよ。

だから電源開発とも話し合ってダム撤去したらという話をさせていただきたいと思います。

#### 【発言者⑦（瀬戸石ダムを撤去する会②）】

こんにちは。瀬戸石ダムがあります芦北町議会議員の〇〇と申します。

今日は球磨川流域また、芦北町県管理河川住民の被災した住民の声を基に提案をしたいと思っております。

芦北町の球磨川流域及び県管理河川の被害の原因究明と事実の検証を求める提案。

蒲島知事様におかれましては、熊本県政の発展のために御尽力、御活躍いただきありがとうございます。

本日は直接知事自身が意見、提案を聞いていただけるということで、以下のことを申し上げます。

1、提案内容。2020年7月豪雨は、芦北町全域に過去に経験したことのない土砂崩れや河川の氾濫により、農地1,100箇所、道路1,000箇所の未曾有の被害をもたらしました。この豪雨により、住宅の全壊70軒、大規模半壊141軒、半壊733軒、亡くなられた人的被害は11名、未だ行方不明1名です。

今回の豪雨被害は、地球温暖化による気候危機が直接の原因と思いますが、芦北町の球磨川流域及び県管理河川の吉尾川、宮の浦川、佐敷川、湯浦川、田浦川等の流域における、河川の氾濫原因の究明と事実の検証をなしに、芦北町の復興と住民の安心・安全な生活を保障することはできません。

2、提案理由。芦北町の球磨川県管理河川流域の住民の声を紹介します。お聞き下さい。

①7月の水害は信じられんような豪雨によるもんやが、瀬戸石ダムができる前の川底ならこんなに水はあがらんかった。

ダムができてから、10mは土砂が溜まっとる。

瀬戸石ダムのすぐ横にある集落の高田辺地区住民の声でした。

②電源開発は毎年12月から土砂搬出をしているが、河床の土砂は一回も取らずに、川底は上がる一方で、今回の水害の原因は河床の堆積土砂も関係あるのではないか。

いつも県道が浸かる簸瀬地区住民の声です。

③川辺川ダムを作るか作らないか検討しているみたいですが、ダムは容量以上の水量になるたびに必ず放流しなければならない。今回の豪雨の水量以上の豪雨が市房ダム、川辺川ダム予定地周辺に降ったら緊急放流することになり、球磨川流域住民の生命と財産を守れるのか。検証も説明もないので、安心して住み続けていけるか不安でいっぱい。

この声は嵩上げてあったところが全滅に近い状態の壊滅的な被害を受けた白石地区住民の声です。

④県の管理河川の佐敷川の氾濫は護岸の老朽化が原因の一つと考えられる。

老朽化した護岸が多すぎる。老朽化した危険な護岸の整備と堆積土砂の排出など、被災住民の声を反映した計画を立ててほしい。

これは県河川の芦北町の中心部、佐敷地区の住民の声です。

3、検証依頼。

①、②については、瀬戸石ダムによる堆積土砂がダム湖周辺地域の洪水被害に与えた事実の検証を国交省に求めてください。

③については、川辺川ダムを建設した場合に、市房ダムと2つのダム周辺が豪雨時に同時に緊急放流した場合に下流域の安全を確保できるのか、国交省に検証を求めて下さい。

④については、芦北町の県管理河川の護岸堆積土砂が洪水被害に与えた影響について検証してください。

以上のことを検証し、芦北町及び被災地区住民に結果報告をすることを要求いたしまして、私の提案といたします。

芦北町議会議員、〇〇。

#### 【発言者⑨（美しい球磨川を守る市民の会①）】

八代の〇〇と申します

7月4日の水害以降、ほとんど土日毎週被災者の支援と現場の確認に毎週出ています。

平日も2日に1回は支援物資を届けたりとか、まだまだ私自身も日常を取り戻せない状況で、その中で多くの方と話をします。

今回の水害で坂本の方は、川が2本になったとか、3本になったとか、そういう話がほとんどです。

その2本というのは道だったり、鉄道、線路の上だったりするわけですけど、皆、今回は本流が一番最後に水が来て、支流から溢れる水でまず道路がいっぱい流れた。支流から溢れてきたというのが今までの合流点の水害と全く違うことかなということ、それが気になって現場を見る時に、山を見るようになりました。

次にカラーのプリントが入っていると思いますけれども、大体私が歩ける所から車で行ける所はほとんど坂本で歩いて行ったんですけども、この黒丸の所が、県道の決壊箇所じゃなくて、県道の決壊場所を入れてません。山の方から崩れて、道路を横断して川に土砂が流れ込んだ場所を示しています。

このくらいちょっと歩いただけでも、市之俣川とかだったら200mおきに1箇所ぐらいは山から崩れているという感じなんですね。

この問題に対しては、私4、5年前からすごく観察をして調査をしてきました。

そして、坂本の流域というのは、たぶん熊本県南の中でも一番鹿の食害がひどい所だと思うんですね。

これ荒瀬ダムのすぐ下なんですけど、5年ぐらい前から鹿が入り始めて草がなくなって表土がポロポロ崩れるようになって、このままじゃ危ないなと思ったもんですから、研究者に見てもらって、鹿の食害で警告を鳴らさないとすごくこれは危ないと思っていたら、今度崩れた同じ場所ですけど、上流の上の2、30m上から、もう、すばっと崩れているんですね。

こういった箇所、これは別のですけど、こういうふうには山から崩れて川に入っているという場所がものすごくたくさんあります。

大小問わず川の影響を受けない所だけ選んでプロットしたのがこれです。

だから私は、今回の水害の半分は川の中の問題じゃなくて、山の問題であると考えています。

研究者の方も多く案内するんですけども、現場を見てもらったら、もうすぐわかってもらえるので、知事にも是非ですね、山の方の現場も見てほしいなと思っています。

支流が危ないというのが、前は球磨川がどんなに濁っても、2、3日したら支流から入る水はみんなきれいだったんです。

今は、まず支流からの濁りが入ってきて、本流の方はきれいになっているのに、支流から入って来る水がいつまでも泥水、こういう支流がたくさんあります。いかに支流の方がやられているかっていうことは、水害対策を考える上で、私は支流沿いには今のままでは住めないと思っています。

支流というのは川底がものすごく上がっているんですね。場所によっては1 mから2 m、川底は狭いですからそれだけ土砂が入り込んでいますので、支流はすぐ溢れると思います。今後、大雨が降ったらですね。

本流も中津道では前から調査している所があるんですけど、そこでも1 m今度土砂が上がっています。

だから本流、あるいは支流の箇所というか、溜まった土砂を取り除かない限り同じ雨どころか、今までの量降らなくても溢れやすくなる。あるいは遥拝堰の上の土砂もものすごく今回で盛り上がっていますので、それも取らないと危ないなどというのがあります。

それともう一つは、さっきから出てきている、やっぱり瀬戸石ダムの問題なんですね。

やっぱりこんなして見られたら、このゲートを開けた所だけで6, 500  $\text{m}^3/\text{s}$  今回流れているんですけど、いかにこの橋脚だとか、下の本体の部分とか、その下に溜まった土砂と、この流せる量を比べたらどんなに瀬戸石ダムが障害になっているかというのは、見たらもう一目瞭然わかんと思うんですよ。

木一本植えても流下を邪魔するといつて、しないのが国交省です。

これがどんなに邪魔しているかというのは、もう現場を見たら一目瞭然ですよ。

ですから、川辺川ダムがあったらという前に、瀬戸石ダムがなかったらどうだったのかという検証を是非してほしいです。

それと、これにかかっている圧力がものすごく強いんですよ。

上から水が次から次に来る。6, 500  $\text{m}^3/\text{s}$ 、いきなり皆さん住民は4, 50

0 m<sup>3</sup>/s まで放送を聞きます。

7時くらいだったと思いますけど、いきなりそれを6, 500 m<sup>3</sup>/s になっているから、すごい勢いで自然の河川と勢いが、全然、ダムがある場合のゲートを開けると、スケールが違うんですよ。

これは、私が6時半に撮った国交省のデジタルカメラで撮ったんですけど、鎌瀬の水が溢れるかどうか、ところがもう簔瀬からもう浸かっているんですよ。

この差が要するにダムによる水位が上がっていると、もう、特に6時半は浸かっています。だからこういう状態で市房が放流したら、もう本当に恐怖を感じたというのが流域住民の声なんです。

だから、やっぱりいくら大きい川辺川ダムを作って、貯水量が倍になっても、流域面積は川辺川の方が市房の集水面積の5倍あるんです。

同じように雨が降ったら、どっちが早く貯まると思えますか。

同時放流ということは、あり得る話です。

ダムの放流によって、災害がおこったのはここ2、3年というか、全国のダムが示しています。もうダムによる治水は終わって流域全体で考えないと、とんでもないことになるというのが私の意見です。

それと、住民の意見はダム問題で、二度と地域を分断されたくないというのが住民です。

荒瀬ダム撤去で一丸となっているところに、またダムの問題が起こる。それが一番の弊害かなと思っています。終わります。

#### 【発言者⑩（美しい球磨川を守る市民の会②）】

私は、球磨川流域を守る会の〇〇をしています。

先に発言された人達とかぶる部分もありますので、瀬戸石ダムと漁協の鮎、青海苔のことで申し上げたいと思います。瀬戸石ダムの堆積土砂が水害を引き起こすということで、土砂を撤去しているんです。それも川の中に流してくれたらいいんですが、丘に上げていますね。

そしたらダムから下流は、全然じゃないけど、砂利が流れてこないんです。

で、鮎は砂利に産卵します。だから産卵場がどんどん減っているんですよ。

海から上がってくる稚魚が、10年ちょっと前は150万尾ぐらいの鮎が遡上がありました。自然遡上が。ところが、去年は10数万です。

これは何が原因かという、やっぱり瀬戸石ダムが砂利を丘に上げていますからです。

それで国交省は八の字堰を作りました。産卵場を作るという名目で、新聞にも結構大きく載りましたよね。

でも、それは今現在は無用の長物になっているんですよ。言えば仏作って魂入れとらんとですよ。

魂は産卵場だったら砂利なんですね。砂利がなければ八の字堰は全然効果を発揮しません。

だから、本来ならば砂利をそこに持ってきてほしいんですが、でも今回の水害を考えると、もうそれどころの話じゃない。

瀬戸石ダムは撤去せなどうしようもないんじゃないかと私は考えています。

それと、他に上流に川辺川ダムのことを先ほどから再三話がありましたが、ダムができると、球磨川漁協はもちろん、海の漁協も大変な被害を受けます。

海は、泥の海になっとつとですよ。底が。砂じゃなくて、泥干潟になりよつとですよ。

それでまた、川辺川ダムを作ったら、海も壊滅的な状況になるんじゃないかと心配しています。

それで、先ほど朴木ダムのことを言われましたが、総代皆で国交省のマイクロに乗って見てきました。それは土砂がどんどんどん、雨が全然降っていないのに、土砂がどんどんどん崩れていって、ずっと1か月以上濁りを球磨川本流をずっと濁りを続かせたんです。球磨川本流も。その濁りが来て、あれしました。だからもう、ダムは作って欲しくないんです。

よろしくダムによらない治水を今までどおりしっかり考えてやってください。お願いします。

#### 【発言者⑪（美しい球磨川を守る市民の会③）】

はい。美しい球磨川を守る市民の会の〇〇です。

今回、川辺川ダムがそもそも計画されたのは、昭和41年に萩原堤防が6,900トン流れたら破堤して、八代市内に大きな被害がもたらされるということで計画をされたんですが、今回で証明されているのが、費用対効果というのが全く位置を下回るものになってしまいました。

だから、費用対効果は今回の経験もあるように、川辺川ダムを作っても八代の費用対効果というのは非常に疑問があるというふうに考える。

それからもう一つ、私が本当に言いたかったことはこれなんです。

まず、私達の知り得る地権者の意見であることをお断りしておきます。

不知火海は我が国の1,000km<sup>2</sup>以上のうちの内湾では、最も閉鎖性の高い海岸です。

閉鎖度指標が瀬戸内海が1.13、有明海が12.89、八代海が32.49です。これは国際エメックスセンター。これは国立高専の先生にイメージで考えたらどうなるかと聞いたら、瀬戸内海は1.21で全部血液が循環する。有明海

は12日で全部入れ替わる。八代海は1か月経っても32.49、変わらない。非常にその沼みたいな閉鎖度の高い海なんだということがわかります。

それからまた、不知火海を囲む砂川、氷川、佐敷川、水俣川などの各41河川については流域面積で69.9%、70%、流域面積で、流入量で74%を球磨川が占めています。要するに4分の3の不知火海に供給する河川の量の4分の3は球磨川が供給している。

チッソ水俣工場が排出した有機水銀によって汚染されていた上に、昭和30年以降、球磨川に建設された荒瀬ダム、瀬戸石ダム、市房ダムによって、腐った水が50年以上も不知火海に流れ込み、汚染を助長し、漁獲量の激減、自然環境の破壊に拍車をかけている。

21世紀は環境の世紀です。治水のことは、決して拙速を犯してはなりません。

環境については言うに及ばず、治水の面からも下流の水位は下げるかもしれませんが、瀬戸石ダムのように上流の水位を上げてしまうというダムを建設するという事は全くの論外です。

絶対認めてはいけません。

熊本県の宝である清流球磨川と、不知火海を子ども達に引き継ぐことこそ、私達の世代の大前提であり、責任です。

この考えこそが熊本県人のアイデンティティ、肥後もっこすです。

これを熊本県民一丸となって成し遂げれば、世界中の人々が賞讃することでしょう。

その先頭に立って、蒲島知事頑張ってください、ということなんです。

ガウディの例もあります。サグラダファミリアの、本当の復興に対する治水の部分に対して、遠大な考えでもいいじゃないですか。まずその復旧、そっちの方が先じゃないでしょうか。

川辺川ダムなんて、本当に論外。よろしくお願いします。頑張ってください。応援します。

**【発言者⑫（子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会②）】**

〇〇です。私は3点ほどお話をしたいのですが、資料は今示しておりますパンフレットの7月4日の人吉におけるピーク流量に関する話の資料です。

これは2006年の第46回河川整備基本方針の検討小委員会で示された資料ですね。

先ほどから出ていますように、寛文9年と、正徳2年の青井阿蘇神社の楼門の水位を基にして、どのくらいの水が流れたのかという記録がですね、その中で示されています。それを基にして、水位がどれくらいになったら流量が増えるのか、比例計算をざっとしたものが、お手元の資料の表に示したものです。

これは、先ほどから説明がありました検証委員会での雨量を基にした推計が正しいのか、こちらが正しいのか、それを競うつもりはございません。

科学的といってもまだまだ科学は未発達ですから、分からない部分は当然あるわけです。

ただ、申し上げたいことは、先ほど〇〇もおっしゃいましたけれども、また違った方法でも推計は可能なんですね。

検証委員会の国交省がファーストオピニオンとすれば、〇〇がセカンドオピニオンで、今私が示しているのがサードオピニオン。各方面から可能な限り可能性のある推計を行って、それを基に検討することによって、より正しい結果が得られるのではないかと、それを申し上げたいために、最初にこれをお示しました。

2つ目は、今回の豪雨は線状降水帯ということで、11時間半計測したという前代未聞の継続時間と量ですね。

これを前提にして、検証が行われたわけです。

私が申し上げたいのは、じゃ、これは今回が最大なのか、今後これを超える線状降水帯と豪雨は発生しないのかということなんですね。

日本近海の海面水温はずっと上昇傾向が続いています。

平均気温も上昇傾向が続いています。

要するに線状降水帯は、海面の水温が高ければ発生頻度が高くなり、大規模化します。

これは今後継続するわけですから、今回以上の豪雨がやってくる可能性はむしろ今まで以上に高くなってくる。

それを前提に、今回の豪雨に基づく被害を検証をするというスタンスがなければ、今回が最高であるかのように、それを前提にして、ダムがあれば助かったというような議論はほとんど意味をなさないのではないかと。そういう懸念を持っています。

最後に、先ほどから復旧とか復興のお話がありましたけれども、私が非常に気になっていますのは、球磨村ですね、旧坂本村、芦北町、これの沿岸部です。

これはかなり堤防を高くしても、これ一回嵩上げをしている所でも浸かってしまったわけですね。

じゃ、もっともっと堤防を高くするのか。

しかし、またそれを超えるかもしれないという不安をお持ちになるはずですよ。

であれば、堤防とかそういうものではなくて、より安全な場所に人が住める条件をどう作るかです。

あるいは、これに伴って、国道であったり道路、それから鉄道、橋梁についても安全な高さへのし上げれば、より安心して、人々はできるだけ今までいた所に

近いところで住みたいとおっしゃっているわけですから、その希望が叶えられると、そういう意味でその議論が全く検証の中で出されていないというのが、私としては非常に不可思議です。

今後、復興の中身を検討される場合には、是非とも治水だけではなくて、水にも川と共存しながら安全に住めるそういう復興のあり方も是非ともお考えいただきたいというふうに思っています。

**【発言者①（子守唄の里・五木を育む清流川辺川を守る県民の会①）】**

これで皆終わりましたけれども、一つですね、是非話しておいてくれと言われた五木の村民の一人からですね、川辺川ダムの時の混乱と対立がまた起こるかと思うとぞっとすると、是非このことだけは知事に伝えてくれと言われていましたからお伝えしておきます。

以上でこちらの方からの話は終わります。

（以 上）